

第2号

カエル

BARBER

吉田

作

大黒天



ウェルカム 第2号

表紙: BARBER 吉田 作 "大黒天"

②: 岩手県遠野市

③: ようこそ、遠野へ!

④: 目次・Special Thanks

⑤: Welcome Talk vol.3

村上 悠 × 佐々木 悠太

「やっぱりなんでも楽しんでやりたいんだよね」

⑧: "狩猟、獣害、動物との関係性。"

金濱 敏彦 × 山田 泰平

⑩: "MF DOOM"

Kazuma Fujiwara

⑪: 夜もウェルカム!2 ~とれもろ~

表紙: 遠野の住まいのこと・子育てのこと

かっぱ淵編集部 (仮)

企画・プロデュース: 富川 岳

編集・執筆: 宮本 拓海

デザイン: 大川 寛樹

Special Thanks

BARBER 吉田

村上 悠 さん

佐々木 悠太 さん

金濱 敏彦 さん

山田 泰平 さん

Kazuma Fujiwara

とれもろ



おふたりの出会いのきっかけを教えてください。

佐々木 出会ったのは2年前か。NOTO GENERAL STOREでの忘年会。それまでお互い面識なかったですね。

村上 それがお会い。持ち込みOKの飲み会だったから、途中でコンビニに酒を買いに行ったら、「この人お店にいたな」って人がいて、遠野の人なのかわからないけどどうもあやうく話しかけてみようと思って、声掛けてみた。

佐々木 全然都会人ぶる気はないけど、そうやって話しかけられたらこっちもかっつけるしかない(笑)。だからまるで東京っばいでしょう？って雰囲気「自分は遠野に住んでますよ」みたいな話しましたね。でも悠くんこそ、遠野の人じゃないなと思ってましたよ。あんまり遠野にはいない雰囲気。こういうおしゃれなセンスの血統書つきの人がってなかなかないんですよ。

村上 お互い通じ合うことがあったのかもね(笑)。まあでも、無意識だけど、こいつはわかってるんだろうなみたいなのが伝わるよね。で、そこがきっかけで今はよく飲んだり。それこそキャンプにもはまってる。

佐々木 それはもう俺のせいですね。間違いない。同じアイボリーのテントで揃えてます(笑)。今は共通の趣味としてキャンプがあるから、夏はめちゃくちゃ、ほぼ毎週通んでましたね。

おふたりは遠野出身で、どちらも東京に住んでいた時期があるんですよね？

村上 東京にいた時はずっとアパレル業に携わってました。最初はストリートとショップ店員のアシスタントみたいな形で、夜コンビニでバイトしながら、給料なしで働いて、その後は友達とブランドを立ち上げて、自分たちで服を作りました。

佐々木 そこから何で帰ってきたんですかって？

村上 もともと偶然と30歳には地元で帰ろうかなとは考えていたんだよね。きっかけになったのは、兄貴が実家の農家を継がないって決めた時、僕もやらないのはもったいないし、アパレルもやりたいことをやれたから、俺がやるって、31歳で帰ってきた。

佐々木 今の俺の歳くらいってことですね。俺が帰ってきたのは、確か5,6年前ですね。それまでは東京でショップ店員をしてました。

遠野に住む人が増えたらいいなと思うことはありますか？

村上 人がいたほうが良いよね？

佐々木 いたほうがいいです。

村上 若い人があんまりないイメージ。

佐々木 遠野を出た人でも帰りたいって人は結構いる、でも帰れない。やっぱり仕事ですね。都会で今満足して働いている人が、その質と給料のままだと帰るんだって絶対帰ってくる。それこそ、悠くんにはいつか本当に事業主になってほしい。農業も独自のやり方してますしね。

村上 普通、この辺りは冬になるとはうれん草とかねざかしが作らないんだけど、やっぱりそれじゃ面白くないでしょ？だから冬も帰るよ。水耕栽培でトマトとレタスを育てる、やっぱりそれで味も良くなるし、付加価値もつくしいんだよね。みんなと同じことやっても面白くないから、違うことをやって帰りたいって。やっぱりなんでも楽しんでやりたいんだよね。それは基本。のちのちみんなと一緒に楽しく仕事するのいいかもね(笑)。

佐々木 それやばいですね。でも本当に人間もあるし、お金の面も含めて大きくして、「お前さんの畑預けるからここで何育てもいいよ」っていうのとかよさそうですね。

村上 それはやうだね。もともとは農業以外に何をやりたかったんだけど、最近はキャンプサイトやるのもいいなと思ってる。いつか、将来的にね。家の裏山があるから、そこ使って。

佐々木 宿事業。勉強もしないといけないですね。料理とか。キャンプで食べましょう。

村上 こまろく考えず、野菜はあるから、自分たちで持ってきてもらってっていうのもいいし。

佐々木 村上君自炊部。いいですね。

村上 頑張ろう。ゆうた。

佐々木 いや、まず頑張ってください(笑)。それまでに修行しときます。

なでる牧場

さくら ララ メメ
(ポニー) (大やぎ) (うさぎ)

上郷町猟友会 会長

金濱 敏彦 さん

しかとくまや 主宰

山田 泰平 さん

狩猟、獣害、動物との関係性。

農作物の被害額が、年間あたり1億円以上発生しているという、遠野市の獣害問題。これまでニホンジカやカモシカからの被害を受けていたが、気候が温暖化してきたことで、近年はイノシシも現れるようになったという。年々、変わり続ける「害獣」と呼ばれる鹿などの動物と遠野との関係について、上郷町猟友会の金濱 敏彦さんと山田 泰平さんに話を聞いた。

「遠野の獣害問題と対策」

①被害の現状

遠野市では特に、ニホンジカやハクビシンによる被害が拡大傾向にあり、ツキノワグマの目撃や被害も増加している。被害を受けているのは、主に稲や飼料作物。電気牧柵・網などによる被害防止に向けた取り組みに加え、捕獲頭数が増加傾向にあるものの被害が縮小しないことから生息頭数が増加していることが推測される。

②猟師の仕事

金濱さんは遠野市・上郷町猟友会会長。年間で150頭の鹿を捕獲し、「自分はもう猟をして生きているんですよ」と話す。遠野市では鹿を捕獲すると1頭あたり1万4500円の補助金を受け取ることができる他、狩猟者の人材育成に向けて、銃の取得に必要な経費の助成なども行っている。

③狩猟のその後

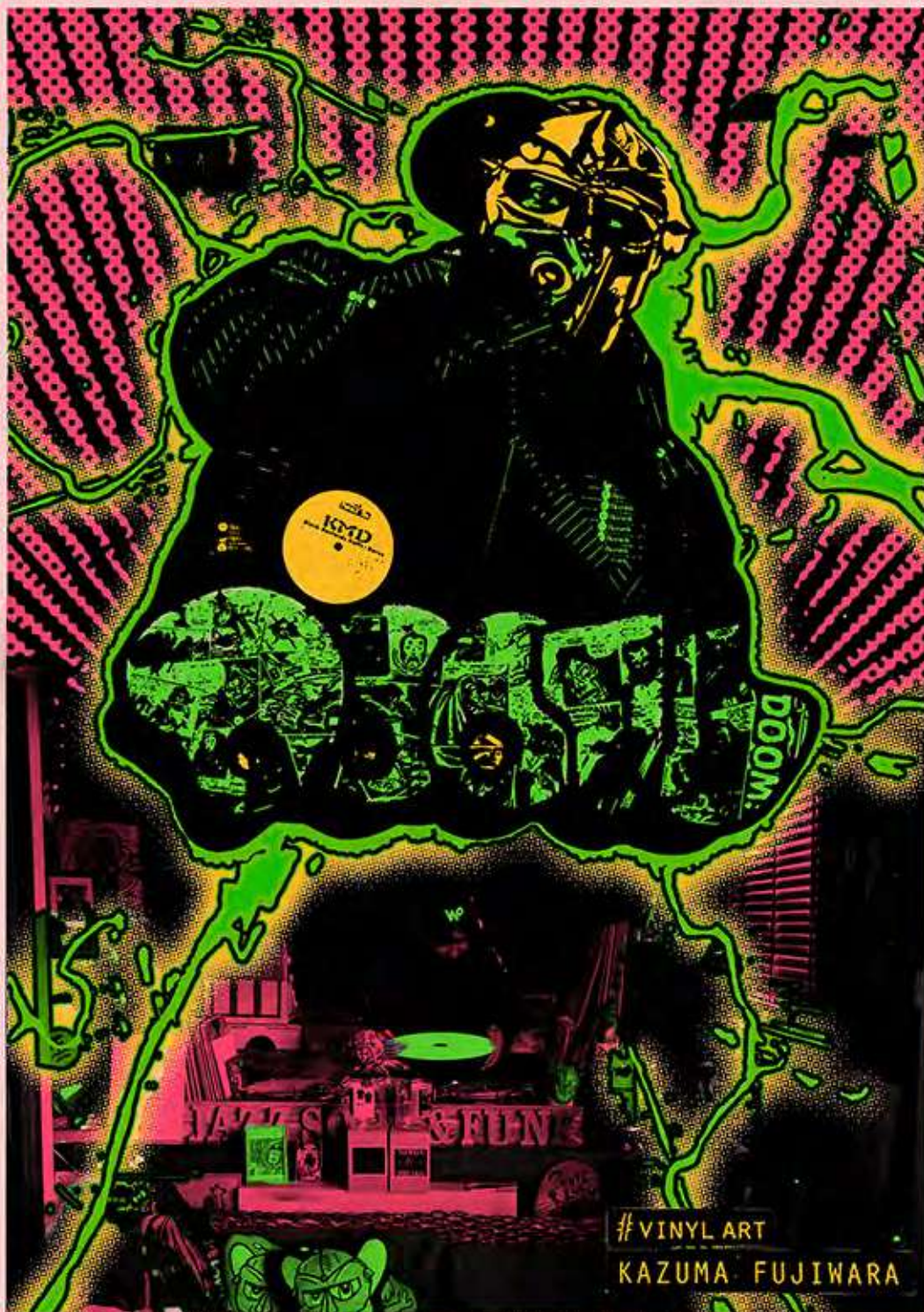
遠野市に加工所がないことや放射線の問題から、捕獲した鹿は食肉としての販売を行うことができない。そこで金濱さんは肉は自宅で調理し、皮は山田さんに加工を依頼。山田さんは鹿革の原皮処理を行い、なめし工場が加工したものを雑貨などの商品にして販売している。



金濱さんは猟師として動物を狩る一方で、地元の小学生が動物とふれあう機会をつくるため、鹿やうさぎ、ヤギ、ポニーを飼育する「なでる牧場」を運営している。

自分たちで農作物を育てること。またその農地を荒らす動物を駆除すること。自然と共生する暮らしが続いてきた遠野では、動物との関わり方がまだまだ多様にある。これからの環境や暮らしの変化が、人と動物との関係性にどんな影響を与えていくのか。

遠野でその日本の未来の縮図が見られるかもしれない。



①② 傷や反りで視聴できなくなったレコードに新たな息吹を吹き込む、ピースヴァイナル



遠野の夜のメインストリート“親不孝通り”とれもろ

「親不孝通り、その名の通りは「親から小遣いももらって、飲みに行く連日だから」とか「たくさんのお金を使ってしまうから」とか、悪戯あるよ。僕がかしいワゴンの店員が、店やこもりをつけるこの親不孝通りのママたちがワンクッションして話してくれれば、ワールカムショップのマスターが、悪戯話の人の話をさんざん紹介してもらった。とれもろのママのこと。

お店を始めた37年前のこの通りはすごく賑やかでしたよ。通りに欠けることなくネオンが点いてね。お店を開けた当時は26歳だったから、経営者の中では私が1番若かったの。4人ぐらいの女の子が一緒に働いてくれていて、みんな水商売の経験ない子だったから、お客さんにすべて教わってた。

もともと生まれは遠野で、高校卒業した時に遠野を出て、それから何年かして戻ってきたんだけど、お店を始めたのはなんとなくで感じだったの。知り合いの内装業者の人が、空き店舗を改修すると仕事が増えるから、「空いてる物件があるんだけど、東京から帰ってきた娘がいるって聞いたからお店やらないか」って毎日来に誘いにきてね。そうすると断るのも申し訳ないし、家族も「やればいじやない」ってなって、どうせすぐ終わるんだからって続けてたらもう37年。本当にこのお店はいいお客さんに恵まれてるんですよ。

遠野は、交通が豊かになるまでは、沿岸と内陸をつなげる要所で多文化交流があったまちだから、いろんな人が集まって、賑わって、いろんな空想を働かせることができていたと思うんだよね。今はインターネットがあるから、みんな画面的には理解できるけど、直に触れることがなくなった。私も本は好きで読むけどあくまでそれは文字で見て、想像するしかないもんね。でも、例えば遠野に人が増えて、生の声を聞いて、いろんなことに直に触れる機会が増えていくのは、遠野にとっていいことだと思う。

住んでいる人にとっては、これまで知らなかったことを見て、聞いて、受け入れていくのは大切なことだよ。まちとしてだけじゃなくて、このお店もそういう場所でありたいと思うの。ここに集まる人たちの人生がプラスになるような場所にし続けられるといいよね。

とれもろには遠野で働き、暮らす多様な人々が集まっている。酔いか回ってダジャレを連発しながら楽しそうに飲み続ける人、仕事について悩みを打ちあける人、昭和の名曲を歌い続ける人……ママはどんな人と接する時もその一人ひとりに真剣に向き合いながら、全力で楽しんで、相談にのって、歌って、踊る。みんながリラックスして、フラットな立場で聞かれるこの場所が、実は遠野を支えていると言っても大げさじゃないのかもじれないと思うほど、遠野の「源さ」のようなものが広がっているお店でした。



遠野の住まい・子育てのこと

☆ 空き家バンク

市内の居住可能な空き家・賃貸物件を紹介。空き家情報は「で・くらす遠野」のホームページで閲覧可能。

(問い合わせ: で・くらす遠野事務局 TEL 0198-62-2111(代表))

☆ 空き家リフォーム事業助成

空き家バンクに登録されている空き家をリフォームする際の費用の1/2を助成。(助成上限あり)

(問い合わせ: で・くらす遠野事務局 TEL 0198-62-2111(代表))

☆ 若年者定着促進家賃補助金

遠野市に転入し、市内の事業所等に新たに就業した45歳未満の若年者が住む民間賃貸住宅の家賃(2万円以上)の1/2(上限1万5千円)を助成。●最長36ヵ月

(問い合わせ: 遠野市商工労働課 TEL 0198-62-2111(代表))

子育てサポート

妊娠・出産・子育てに関する相談はこちら

・遠野市子育て世代包括支援センター(母子保健の総合相談窓口)

(問い合わせ: 遠野市助産院「ねっと・ゆりがこ」TEL0198-62-1103)

・元氣わらすっセンター

(問い合わせ: 遠野市子ども政策課 TEL0198-62-0189)

